

平成 18 年度

河川名	地点	水素イオン濃度 PH		生物化学的酸素要求量 BOD		浮遊物質量 SS		溶存酸素量 DO					
		月	年平均	月	年平均	月	年平均	月	年平均				
神田川	久保前橋	5	8.3	7.9	5	1.5	10.2	5	2.2	20.6	5	12	10.8
		9	7.1		9	26		9	64		9	6.8	
		11	7.9		11	12		11	6.8		11	11.3	
		2	8.4		2	1.2		2	9.2		2	13.1	
	高戸橋	5	7.3	7.2	5	1.3	7.3	5	1.4	12.0	5	9.2	9.1
		9	7.1		9	25		9	37		9	8.2	
		11	7.3		11	1.5		11	<1		11	9.1	
		2	7.2		2	1.5		2	8.6		2	9.8	
妙正寺川	四村橋	5	7.7	7.5	5	1.3	7.5	5	17	18.7	5	11	10.4
		9	7.1		9	25		9	50		9	6.7	
		11	7.4		11	2.1		11	<1		11	10.3	
		2	7.6		2	1.7		2	6.7		2	13.4	

## 各項目の解説

### 水素イオン濃度 (PH)

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強く、7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。

環境基準 6.5 ~ 8.5 (C類型)

### 生物化学的酸素要求量 (BOD)

微生物が水中の汚れ(有機物)を食べる(酸化分析)時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。

環境基準 5 mg / l 以下 (C類型)

### 浮遊物質量 (SS)

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると河底の生物にも悪影響を及ぼします。

環境基準 50 mg / l 以下

### 溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。

環境基準 5 mg / l 以上 (C類型)